

JENESYS2020 日 ASEAN 東ティモール・オンライン交流 (被災地復興・日本文化)の記録

1. 概要

【目的】 ASEAN 諸国及び東ティモールの大学生・大学院生が、東日本大震災からの復興の歩みを学び、また、多角的に日本を体験することを通じて、日本と参加国との親善促進、風評被害の払拭に寄与することを主目的に、本プログラムを実施しました。

【参加者】 ASEAN10 か国及び東ティモールの大学生・大学院生 計 90 名
 ※ASEAN10 か国：インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ブルネイ、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオス

【訪問地】 東京都、福島県、宮城県、岩手県、沖縄県、山梨県、長崎県

2. 日程

日付 訪問地	内容	参加者の質問・反応
2021 年 7 月 29 日 東京都	【オリエンテーション・アイスブレイク】 【ウェビナー・質疑応答】 日本理解講義「Japanese Society and Culture」 講師：元横浜国立大学准教授 アンドラディ・久美氏	今回のプログラムに対する期待や各自の役割について、活発に意見交換していました。講義で学んだ日本語の挨拶や表現を積極的に発話していました。多くの質問があり、日本についての関心が高まったようです。
2021 年 7 月 30 日 福島県	【ウェビナー・意見交換】 「東日本大震災当時から現在までの状況及び復興の取組みについて」 講師：福島大学国際交流センター副センター長 マクマイケル・ウィリアム氏	「避難者約 35,000 名の今の暮らしはどうなっているのか」等、復興の現状についての質問が多数ありました。
2021 年 8 月 3 日 宮城県	【自治体表敬訪問】 訪問先：宮城県南三陸町 ①地域概要説明 ・ 地域の特徴・魅力 ・ 東日本大震災と復興への歩み ②意見交換	「震災後、電力と給水が復旧するのにどれくらい時間を要したか」、「自国では、災害時に行政から避難を呼びかけても対応しない高齢者が多いが、日本では避難は強制か」、「避難所でメンタルストレスを和らげるためのサービスは提供されていたか」等の質問がありました。

2021年 8月4日 宮城県	【ホームビジット】 (グループ別実施：A～E) 訪問先：宮城県南三陸町	東日本大震災時の体験や日頃の防災対策について日本人家庭から話を聞き、防災意識を高めるとともに、和室や着物等の日本の伝統文化に強い興味を示していました。 「震災の喪失感からどのように前向きになれたのか」、「インドネシアでも津波被害があるが、どう対処したらよいか」等の質問や、「日本を訪れた際にはぜひ皆さんとお会いしたい」という声がありました。
2021年 8月5日 岩手県	【自治体表敬訪問】 訪問先：岩手県久慈市 ①地域概要説明 ・地域の特徴（観光資源等） ・自然災害と防災教育 ②意見交換	「フィリピンも台風の被害を受けやすい国ですが、久慈市で風水害被害があった時、電気、水道の復旧にはどれくらいの時間を要したか」等の質問がありました。
2021年 8月6日 岩手県	【ホームビジット】 (グループ別実施：F～J) 訪問先：岩手県久慈市	自己紹介、趣味の話、地元の食材を使用した調理の実演、家の中のバーチャルツアー、折り紙体験等を通じて、日本のホストファミリーとの親交を深めていました。最後に、グループで作成したお礼状をホストファミリーに渡し、コロナ収束後の再会を誓い合っていました。
2021年 8月10日 沖縄県	【日本文化体験】空手の練習 訪問先：沖縄空手会館	東京オリンピックの金メダリスト・喜友名選手に関する事、講師が空手を始めたきっかけ、テコンドーとの違い等につき、多数の質問がありました。
2021年 8月13日 山梨県	【日本文化視察】和紙・障子紙工場 訪問先：金長特殊製紙株式会社	「和紙の生成は、長年変わらない手法で行われているのか」、「同社以外にも和紙を作っている会社はあるのか」、「和紙はリサイクルされているのか」等、伝統的側面や環境保護に係る質問がありました。
2021年 8月19日 長崎県	【学校交流】訪問先：長崎大学 ①大学概要、長崎の歴史の説明 ②意見交換・交流会	新型コロナウイルス感染症拡大における各国の現状、若者がこの状況を乗り切るためのアイデア等につき、活発に意見交換をしていました。
2021年 8月20日 福島県	【企業視察】 訪問先：農業生産法人株式会社 GRA ①会社概要、東日本大震災からの復興の現状説明	会社設立の経緯、イチゴ栽培や事業展開について強い関心を示していました。また、ビニールハウス施工にかかる時間と経費、湿度・温度の管理方法、海外への輸出状況

	② 囲場のバーチャル視察	等に関する質問が多くありました。
2021年 8月25日 東京都	【報告会】 ① オンライン交流（10日間）の成果発表 ② テーマ別制作動画の上映 （テーマ例：「私が学んだ日本の魅力」「コロナ禍での応援メッセージ（対面交流再開への願い）」等）	本プログラムを通じて学んだ震災と復興活動についての気づきを共有し、また、将来日本でやりたいこと・行きたい場所等について、参加者同士で将来の活動・希望等について発表しました。

3. 記録写真

			
2021年7月29日【ウェビナー】 日本文化・作法について学ぶ	2021年7月30日【ウェビナー】 東日本大震災からの復興の様子を熱心に聴講		
			
2021年8月3日【宮城県南三陸町への表敬訪問】 震災直後の行政の対応を学ぶ	2021年8月4日【南三陸町のホームビジット】 ホストファミリーから着物について学ぶ		
			
2021年8月5日【岩手県久慈市への表敬訪問】 台風被害の浸水域についての説明を聴く	2021年8月6日【久慈市のホームビジット】 日本の家庭料理に注がれる羨望の眼差し		

	
<p>2021年8月10日【空手体験】</p>	<p>2021年8月13日【日本文化・和紙工場視察】</p>
	
<p>2021年8月19日【長崎大学学生との交流】</p>	<p>2021年8月20日【株式会社 GRA 視察】</p>
	
<p>2021年8月25日【報告会における発表】</p>	<p>2021年8月25日【報告会における発表】</p>

4. 参加者の感想（抜粋）

◆ ミャンマー 大学生

充実したプログラムで、多くのことを学ぶことができました。日本のことを知るほど、日本が好きになりました。プログラムに参加した数多くの素晴らしい友人たちと共に学び・経験を共有することができました。このプログラムに参加して日本で学びたいと強く思うようになりました。

◆ インドネシア 大学生

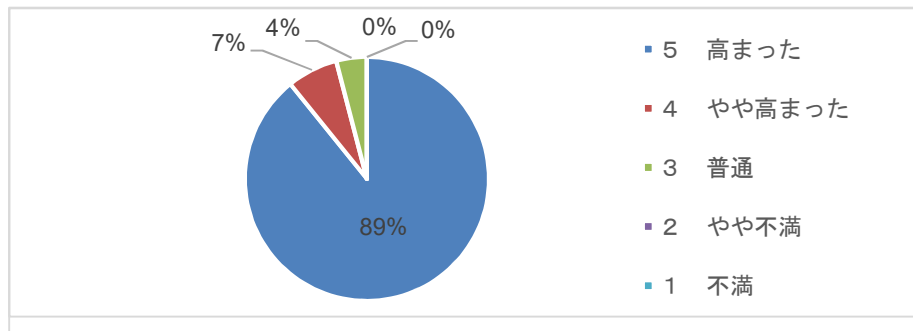
新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンラインではありましたが、このプログラムに参加することができ、日本のことを深く知ることができ、とても嬉しく思います。ホームビジットでは、受入れ家庭の皆さんの人柄、生活様式、習慣を知り得たばかりではなく、日本の家族の一員になりました。講義や視察プログラムでは、日本の技術や経済発展が印象に残りました。

◆ フィリピン 大学生

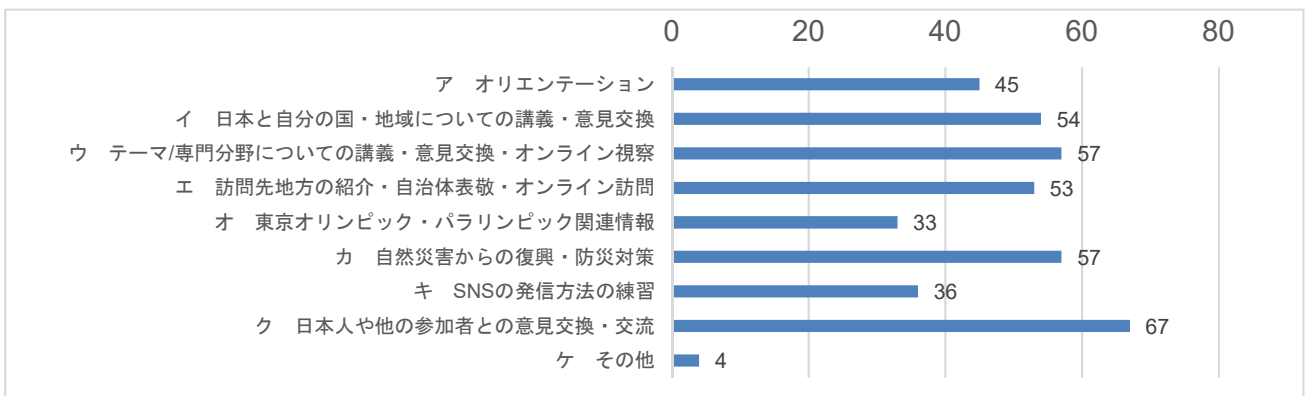
10日間のプログラムを通して、日本文化や社会に触れることができ感動しました。日本の人々の(震災や災害に負けない)強靭さが大変印象的でした。また、ホストファミリー、講師の方々、他国の参加者との交流も楽しむことができました。

◆ アンケート調査回答(抜粋)

(1) このオンライン交流に参加し、訪日への期待は高まりましたか。



(2) 今回のオンライン交流で印象に残った事は何ですか。(複数選択可)



5. 受入れ側の感想(抜粋)

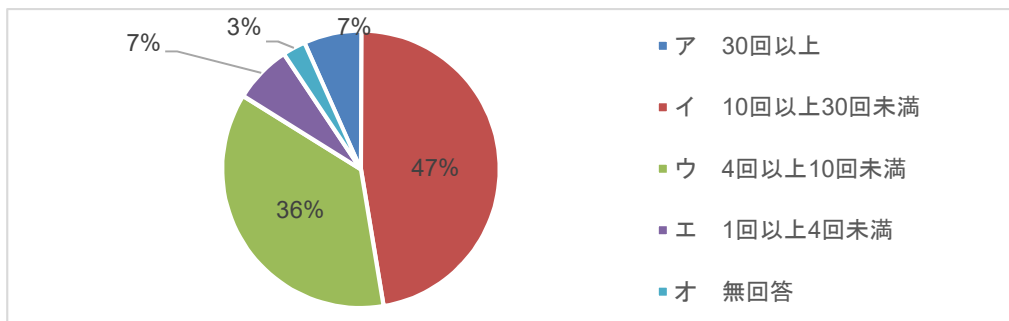
◆ 長崎大学講師

講義前に参加者同士の交流時間があったため、参加者の様子を若干でも把握することができたことはとても良かったです。こうした交流時間は、講師にとってのメリットがあるだけでなく、参加者同士も「仲間がいる」ことがわかり、一体感が生まれるので、良いのではと思います。参加者の英語力には差があるようでしたが、それにもかかわらず、多くの参加者が積極的に話している様子が印象的でした。日本人学生にもこのように積極的になって欲しいなと思いました。

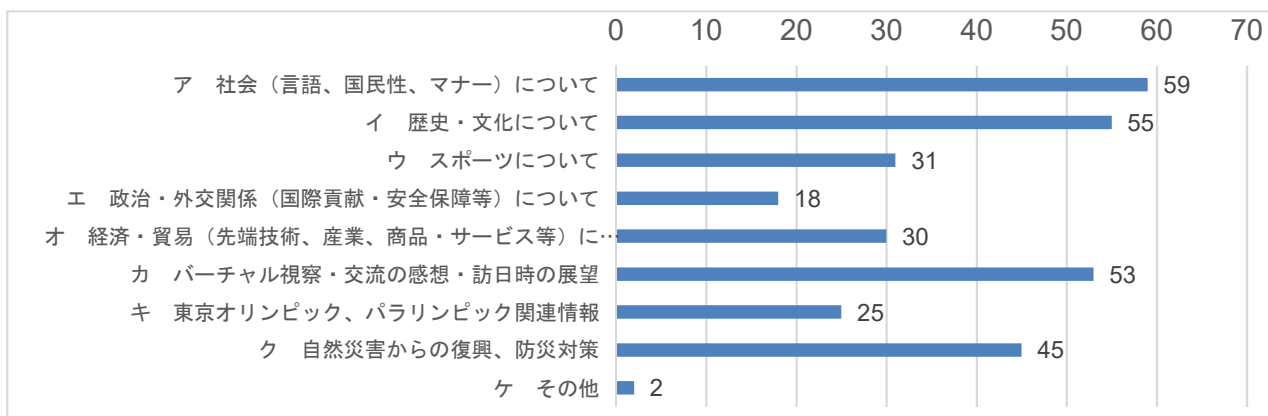
6. 参加者の対外発信

◆ アンケート調査回答（抜粋）

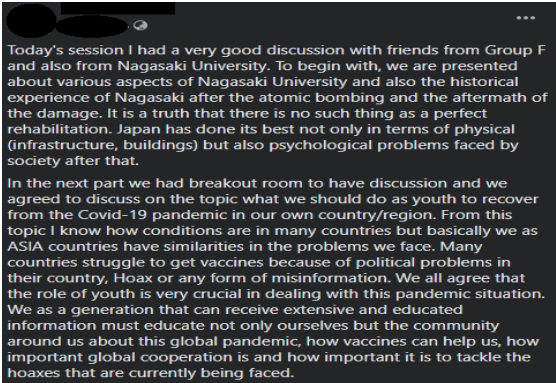

(1) オンライン交流中または参加後に、プログラムへの参加の感想、日本の魅力や日本事情について SNS 等で何回発信を行いましたか。



(2) 日本の何に関心を持ち、発信しましたか。（複数選択可）



◆ 発信事例

<p>2021年8月4日 (Facebook)</p> <p>【宮城県南三陸町の歩みについて】</p> <p>南三陸町は日本の宮城県にある町で、春夏秋冬の四季があります。産業は漁業、民泊産業、農業等様々なものがあり、南三陸町は素敵な住民達と共に発展してきました。しかし、2011年3月11日に巨大な自然災害（マグニチュード9の地震と20mの津波）が発生し、街全体が洪水の被害に見舞われました。何百人もの人々が避難しましたが、愛する家族や住民、そして全財産を失ってしまいました。しかし、政府は人々が以前の生活に戻れるよう、避難所の管理、日常生活の再建、職場や居住地の準備を率先して行いました。<u>世界の中で、日本は自然災害からの復興経験が活かされている国といえるでしょう。</u></p>	<p>2021年8月20日 (Facebook)</p> <p>【ホームビジットについて】</p> <p>10日間にわたるプログラムの5日目です。ようやくホストファミリーに会えました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で<u>残念ながらZoomでの訪問となりましたが、ホストファミリーはまるで僕たちが日本にいるかのように対応してくれました。来日したら是非、再会したいです。</u></p>
 <p>Today's session I had a very good discussion with friends from Group F and also from Nagasaki University. To begin with, we are presented about various aspects of Nagasaki University and also the historical experience of Nagasaki after the atomic bombing and the aftermath of the damage. It is a truth that there is no such thing as a perfect rehabilitation. Japan has done its best not only in terms of physical (infrastructure, buildings) but also psychological problems faced by society after that.</p> <p>In the next part we had breakout room to have discussion and we agreed to discuss on the topic what we should do as youth to recover from the Covid-19 pandemic in our own country/region. From this topic I know how conditions are in many countries but basically we as ASIA countries have similarities in the problems we face. Many countries struggle to get vaccines because of political problems in their country, Hoax or any form of misinformation. We all agree that the role of youth is very crucial in dealing with this pandemic situation. We as a generation that can receive extensive and educated information must educate not only ourselves but the community around us about this global pandemic, how vaccines can help us, how important global cooperation is and how important it is to tackle the hoaxes that are currently being faced.</p>	 <p>Just now</p> <p>DAY 9 Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths Online Exchange Program</p> <p>Today is the ninth day of lectures for our JENESYS (Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths Online Exchange Program) online exchange program. We had a lecture and a virtual tour on a strawberry farm of the General Reconstruction Association Inc.. The GRA was established to create jobs and bring back people to the Yamamoto town. I was amazed by the technology utilized in the greenhouses of the company. Someday I wish to visit their farm and pick some strawberries.</p>
<p>2021年8月19日 (Facebook)</p> <p>【長崎大学との学校交流について】</p> <p>長崎大学概要や原爆投下後の長崎の歴史や被害について学びました。また、「自国や地域での新型コロナウイルス感染症拡大から立ち直るために、若者として何をすべきか」のテーマで議論し、各国の状況を知ることができました。この<u>コロナ禍の状況に対処するためには、若者の役割が非常に重要</u>であることは誰もが認めるところです。<u>多くの有益な情報を得ることができる世代である私たちは、ワクチンがどのように私たちを助けてくれるのか、世界的な協力がいかに重要であるかにつき、周囲のコミュニティに発信しなければならない</u>と思いました。</p>	<p>2021年8月20日 (Facebook)</p> <p>【株式会社 GRA の視察について】</p> <p>今日は JENESYS オンライン交流の9日目。私たちは株式会社 GRA のウェビナーとバーチャルツアーに参加しました。同社は福島県山元町で雇用の機会を増やし、住民を呼び戻すために設立されました。<u>同社のビニールハウスで採用されている技術には驚かされました。いつかこの農場を訪れて、いちご狩りをしてみたいです。</u></p>

7. 報告会の記録

<p>Group A</p> 	<p>Group F</p> 	<p>◆ 参加者の発表（抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2011年の東日本大震災以降、日本がどれだけの復興をしてきたかを学び、感化されました。 ・ 災害は世界中で起こり得る事であり、そういった事態の中で人々がいかに協力し合えるかが重要だと感じました。「<u>互いに助け合う</u>」という考え方を発信したいです。 ・ 長崎大学の学生とコロナ禍の生活を話し合い、世界における問題は、私たちの共通課題であること、<u>私たち若い世代が復興を担うのだと認識</u>しました。 ・ 日本には世界でトップクラスのテクノロジー（再生可能エネルギーを基盤とする福島イノベーションコースト構想等）や災害対策技術があると知りました。 ・ 私たちの日本についてのグループ SNS 発信は 24 件、108 人のフォロワーと 530 件以上のいいね！をもらえました。 ・ 今回の学びを活かして、<u>日本と ASEAN・東ティモールの関係をサポート</u>していきたいです。 ・ 将来、福島、宮城、岩手を訪問し、復興の現状を見てみたいです。日本語を学びたいです。留学したいです。日本食を楽しみたいです。ホームビジット時の吉田さんご家族に会いたいです。長崎大学の学生達と再会したいです。
<p>Group B</p> 	<p>Group G</p> 	
<p>Group C</p> 	<p>Group H</p> 	
<p>Group D</p> 	<p>Group I</p> 	
<p>Group E</p> 	<p>Group J</p> 	

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）